

スダジイの開花と萌芽@筑波実験植物園 (TBG)

このPENだよりでは、Phenological Eyes Network (PEN) が取得したデータの中からいくつかのデータをピックアップして不定期にご紹介します。今回は、国立科学博物館 筑波実験植物園内の自然史標本棟屋上に設置した自動定点カメラが捉えたスダジイ (*Castanopsis sieboldii*) の開花と萌芽の様子をお伝えします。(大田・笹川・奈佐原)



スダジイはブナ科の常緑広葉樹で、5月ごろに花を咲かせます。スダジイの雄花は強いにおいを放ち、虫を呼び寄せることで受粉を助けてもらっています。植物園のスダジイは樹高が高いため、花を間近で観察するのは難しいかもしれませんが、この時期ならではの香りから、スダジイの開花を感じてみるのもおすすめです。



右の写真は、開花から一か月経ったスダジイの様子です。この春に黄緑色だった若葉も、緑色に成長しているのが観察できます。周りの木と比べて茶色っぽく見えるのは、スダジイの葉の裏側が黄褐色をしているからです。

ぜひ樹冠を見上げて、常緑樹の季節変化にも注目してみてください。

参考：八田洋章、樹木生活史図鑑、北隆館、2024

これらの画像はPENのwebサイト (<https://pen.envr.tsukuba.ac.jp/~TBG/summary/dc/>) からご覧になれます。

PENだよりについてのご意見・ご感想などは、s2312778@u.tsukuba.ac.jpまでお寄せください。

